

令和8年度 2026年

むぞか新聞

vol.
37

鹿児島県の幼稚園・こども園の
あふれる魅力をお届けします。



一般社団法人
鹿児島県私立幼稚園協会

新旧会長対談

これまでの10年
そして、これからの鹿児島

鹿児島県私立幼稚園協会の会長を5期10年にわたり務めてこられた上原前会長から三木新会長へ――。

長年にわたって会長、副会長として協会を支えてこられたお二人に、これまでの歩みやお互いへの思い、そして、これからの鹿児島県の幼児教育・保育について、ざっくばらんに語っていただきました。

これまでの10年を振り返り、今、どのようなことを感じていますか。

上原 大変な時期もありましたが、振り返ってみると、よくここまで来ることができたと思います。会長を引き受けた当初は、会長として何をすればいいのか、年間を通してどれほど多

前会長
上原樹縁

Tatsuyori Uehara

学校法人上原学園
おおぞらこども園 理事長

会長
三木隆朋

Ryuho Miki

学校法人ゆめおえ学園
川辺幼稚園 理事長・園長

くの会議があるのかも十分に分かっていませんでした。実際に動き始めて、改めて歴代の会長の先生方もこれだけのことをされてきたのだと実感しました。一人でできる仕事ではありません。三木先生をはじめ、執行部や理事、各委員会の先生方、事務局、そして協会に関わる多くの皆さんに支えていただきました。10年間を一言で表すなら、やはり「感謝」です。皆さんに支えていただいたからこそ、最後まで務めることができました。

三木 私が幼稚園協会にデビューをして、最初に親しく話をしてくださったのが上原先生でした。親方のような一面があり、とてもフレンドリーで困った時に相談できる、頼れる先輩でした。その後、上原先生が会長に

なられた時に「自分の役割は、この人を支えることだ。」と思いました。副会長という役職をいただきましたが、何か一つでも自分にできることで、会長を支えることができればいい。その思いが私の原動力でした。上原先生が3期で終わられても5期務められても、最後まで一緒に走ろうと思っていました。会長職の大変さを一番近くで見ながらともに過ごした10年間は、本当に楽しく、かけがえない時間でした。今、改めて「上原先生と出会えてよかった」と思っています。

上原先生が会長として大切にされてきたことは何ですか。

上原 就任当初から、理事会や委員会を一部の人だけで物事を決める場にはしたくないと考えていました。会長が最初から答えを示して、「これでいいですか」と確認するだけでは、周囲はなかなか意見を言えません。そこで、理事会でも委員会でも、できる限り皆さんに話してもらい、対話の中から方向性を

つくることを大切にしました。また、専門委員会で話し合ったことを実際の協会運営や事業に反映する「委員会主導型」の組織を目指しました。これまで続けてきた事業であっても、時代に合わなくなったものは見直す必要があります。一方で、新しく必要になったことには挑戦しなければなりません。その判断を会長一人でするのではなく、皆さんと一緒に考え、進める協会でありたいと思ってきました。

三木先生はどのような会長で在りたいと考えますか。

三木 基本的には、上原先生が築いてきた路線を受け継ぎたいと思っています。それは、上原先生とまったく同じことをするという意味ではありません。みんなが意見を出し、それぞれの委員会や担当者が自ら考えて動く協会をつくるという考え方を大切にしたいということです。新しい執行部が始まり、各委員長や理事の先生方が、自分たちの思いやビジョンを言葉にして、積極的に動いてくださっ

ています。その姿を見て、「会長がすべてをする必要はない」と感じています。会長が答えを出すのではなく、皆さんが力を発揮できる環境をつくるのが会長の役割です。私自身も皆さんに支えていただきながら、一緒に考え、一緒に動く会長でありたいと思っています。

これからの協会を担う先生方に期待することを教えてください。

上原 私たちは20代、30代、40代、そして50代になっても、長い間「若手」と呼ばれてきました。それは、私たちが次の世代を十分に育ててこなかったからかもしれません。これから大切なのは、『次世代のうちに次世代をつくる』ことです。上の世代が若手を一方的に育てるのではなく、今、活躍している世代が、さらに若い世代に声をかけ、役割や経験をつないでいく。その循環が生まれれば、特定の人がいなくなっても、協会の思いや文化は受け継がれていきます。

三木 少子化が進み、幼稚園や認定こども園を取り巻く環境は、こ

れからも大きく変化していきま
す。私たちの世代が経験してきた
課題と、これからの世代が向き合
う課題は決して同じではありません。
だからこそ、これからを担う
先生方には、自分たちで考え、話
し合い、恐れずに挑戦を続けてほ
しいです。時代が変われば、すぐ
に正解が見つかることばかりでは
ありません。答えのない問いに向
き合いながら、その時々最善を
考え、一歩ずつ前へ進んでいく。
その積み重ねが、幼児教育・保育
や協会の未来をつくっていくのだ
と思います。もちろん、思うよう
な結果につながらないこともある
でしょう。しかし、それは挑戦し
た証でもあります。私は、失敗で
きる社会をつくることも幼児教
育・保育の大切な役割だと考えま
す。だからこそ、まずは私たち自
身が挑戦する姿を、これからも子
どもたちに見せてあげたいもので
す。そして、先生方には自分なり
の夢や理想をしっかり心に持つ
てほしいと思います。理想がなけ
れば、そこに向かう原動力も、実
現するための計画もありません。
先生方一人ひとりの夢や理想が、
新しい時代の幼児教育・保育を切
り拓いていくと信じています。



「これから大切なのは、
『次世代のうちに次世代をつくる』こと」



鹿児島
の
幼児教育・保育の未来へ、
熱い思いをつなぐ。
時代への挑戦

編集後記

対談を通して印象的だったのは、お二人がお互いへの感謝と信頼を何度口にもされていたことです。会長と副会長という立場を超え、ともに悩み、ともに考え、鹿児島島の幼児教育・保育のために歩み続けてこられた10年間。その積み重ねが、今の協会を支える大きな力になっていることを感じました。上原前会長から三木新会長へ託された思いは、きっと多くの先生方へ、そしてこれからを担う世代へと受け継がれていくのだと思います。貴重なお話ありがとうございました。

私の園のおすすめレシピ

材料

【大人2人・子ども2人分】

鶏もも 300g
(1個25gを大人4個、子ども2個)
生姜絞り汁 1片分
酒 小さじ 1
片栗粉 20g
揚げ油 適量
<タレ>
深ネギ 25g
濃い口醤油 小さじ2.5
三温糖 大さじ 1
酢 小さじ 2
ごま油 小さじ 1/2



『ユーリンチー』

作り方

1. 鶏肉を生姜汁と酒につけておく。
2. タレを作る。深ネギは小口切りにし、小鍋にすべての材料、調味料を入れて沸騰させ、酢の酸味を飛ばす。
3. 1の鶏肉に片栗粉をまぶし、180℃で3～4分揚げる。
4. 揚げた鶏肉に、3のタレをからめて出来上がり。

あけぼの幼稚園
鹿児島市小野4丁目4-31
☎099-229-0008



材料

【子ども1人分】

スパゲティ 40g
玉ねぎ 25g (1/8個)
春キャベツ 15g (1/2枚)
油 1g (小さじ1/4)
豚ひき肉 15g・牛ひき肉 15g
A: トマトピューレ20g
(大さじ1 1/3)
トマトケチャップ3.5g
(小さじ2/3)
ウスターソース1.2g
(小さじ1/5)
固形コンソメ1g
(約1/5個)



『キャベツの
ミートソーススパ』

作り方

1. スパゲティは1/3の長さに折ってゆでる。
2. 玉ねぎとキャベツは粗みじん切りにする。
3. フライパンに油を熱し、ひき肉を炒め、火が通ったら②を加えてさらに炒める。
4. ③にAを加えて水分が半分くらいになるまで煮る。
5. スパゲティを皿に盛り、④をかけて出来上がり。

コスモス幼稚園・こすもす保育園
指宿市十二町2338-5
☎0993-22-5558



材料

【子ども1人分】

ロールパン 1個
コーンスターチ 1.2g
砂糖 4.5g
牛乳 15g
バター 1g



『ミルククリームパン』

作り方

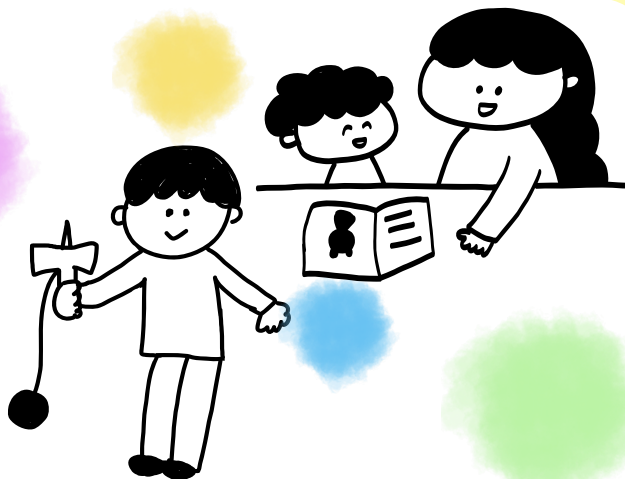
1. ロールパン以外の材料を全て鍋に入れ、よく混ぜながら加熱する。
2. クリーム状に固まってきたら火を止め、粗熱をとって冷蔵庫で冷やす。
3. ロールパンに切り込みを入れて、クリームを挟んだら完成。

吹上中央こども園
日置市吹上町湯之浦1793
☎099-296-2360



私の好きな 絵本

私の好きな おもちゃ



「うまれてきてくれてありがとう」
童心社

にしもとよう・文 黒井 健・絵

親から子への「うまれてきてくれて、ありがとう」という気持ちを描いた、心温まる絵本です。ページをめくるたびに家族の大切さや命の尊さを感じ、自然と周りの人への感謝の気持ちが湧いてきます。やさしい絵と温かい文章が、私は大好きです。

認定こども園 大崎幼稚園
保育教諭 松尾 百華 先生



「おめめのめがみさま」

教育画劇

よしむらあきこ・作/絵

主人公の「めがみさま」は、女神さまではなく目の神さま。主人公の目を守るために、時に技を繰り出しながらアドバイスをしてくれます。タブレット等の電子機器が日常的に使用され、目を酷使しがちな現代社会にぴったりの一冊です。

いにしき幼稚園
看護師 松山 ゆかい 先生



「こどもかいぎ」

フレーベル館

北村 裕花・作/絵

"怒られたときはどうしたらいいか"を議題にスーツを着た可愛い子どもたちが真面目に議論を繰り広げるユーモアたっぷりの絵本です。大人もクスッと笑えます！親子で過ごす時間に一緒に読んでいただきたいおすすめの一冊です。

千年幼稚園
園長 永吉 あかり 先生



「ビリボ」 moluk (モルク)

●●●●●●●●●●●●●●●●
ヘルメットのようにかぶったり、背中に背負ってカメの甲羅にしたり、なりきりあそびをしています。

いくつも並べてぴょんぴょんと飛び石あそびをするのも好きですが、バランスチェアとしてゆらゆらと揺れながらあそぶのが一番のお気に入りのようです。四つ這いやジャンプなど体幹を使いながら、楽しく遊べる遊具です。

阿久根めぐみこども園
主任 本 京子 先生



「Bブロック」 JAKUETS (ジャクエツ)

●●●●●●●●●●●●●●●●
1人で好きな形を作ったり、友達と一緒にどこまでも長く繋げてみたりと、様々な遊びができる玩具です。板状のベースを置けば、子どもたちは模様や絵を描くように夢中でくっつけて遊んでいます。ブロックの色も様々で、小さい年齢の子どもたちは覚えた色のブロックをたくさん集めて楽しんでいます。

吹上中央こども園
副園長 濱元 庄吾 先生

母校の先生と語る

～鹿児島女子短期大学～

座談会

学び、悩み、支えられながら、
保育者になっていく

保育者を目指す学生が学校で学んだことは、実際の保育現場でどのように生かされているのでしょうか。今回、鹿児島女子短期大学の今村幸子先生と、卒業生である錦城幼稚園の有川鈴菜先生、鹿児島おとり幼稚園の川原瑞紀先生にお話を伺いました。学生時代の思い出から新人時代の葛藤、子どもや保護者との関わり、保育の魅力まで、率直に語り合っていました。

保育者を目指したきっかけを教えてください。

川原 幼稚園の時の先生がとても大好きで、毎日幼稚園に行くのが楽しかったことを覚えています。運動会でお母さんと踊る競技があった時も、お母さんではなく、その先生と踊りたくて、「先生がいい」と泣いてしまったほど大好きで、「幼稚園の先生っていいな」



と思ったのが最初のきっかけで、「幼稚園の先生になりたい」という夢は、その後もブレませんでした。短大では、幼稚園や保育園だけでなく、児童養護施設にも実習に行きました。実際に訪れると、一人ひとりの子どもにも丁寧に向き合う温かな環境があり、施設で働くことにも心が動きました。就職先を決める時にはとても迷いましたが、最終的におとり幼稚園に就職しました。実際に働いてみると、自分が「やってみたい」と思ったことに思いきり挑戦させてもらえる環境があり、本当にありがたいと感じています。幼稚園の頃からの夢に、たどり着くことができました。たんだなと感じています。

有川 私は高校時代、吹奏楽部でマーチングをしていました。あるマーチングフェスティバルで、子どもたちが頑張って演奏する姿や、先生たちがかっこよく動きながら子どもたちを支えている姿を見て、「この仕事はやりがいがありそうだな」と思ったのが、保育



鹿児島女子短期大学



「多様な専門科目を通して、子どもの発達や個性への理解を深め、豊かな感性と実践力を育む。「遊び」と「学び」のつながりを大切にし、子どもに寄り添う教育・保育者を育成している。」

鹿児島市高麗町6-9
099-254-9191 (代表)



今村 幸子先生
鹿児島女子短期大学
児童教育学科 講師



川原 瑞紀先生
鹿児島おとり幼稚園
保育教諭 (4年目)
2022年卒業



有川 鈴菜先生
錦城幼稚園
保育教諭 (4年目)
2022年卒業

の仕事を目指す一番のきっかけでした。就職した園は先生たちが温かくて、実習のときに「いいな」と思った錦城幼稚園に就職しました。今でも、いつか子どもたちとマーチングに取り組みたいという夢があります。子どもたちが一つの目標に向かって頑張り、大きく成長していけるような経験をさせたいです。

今村 二人の学年は、とてもエネルギーのある学年でした。学生同士でぶつかることもありましたが、思っていることを伝え、話し合い、また関係をつくり直す力がありました。保育の仕事では、子どもだけでなく、保護者や同僚とも向き合います。人と関わり、自分の思いを伝え、相手の考えを聞きながら関係を築く力が必要です。学生時代に人とぶつかり、向き合った経験も、今の二人に生きているのだと思います。

養成校で学んだことは、現在の仕事にどのような生きていますか。

有川 授業の中でグループディスカッションがあったのですが、自分の意見だけだとわからなかった

ことが他の友達の意見を聞くことで、「こんな見方もあるんだ」と気づけた経験は、今の現場でも生かされています。例えば、子どものある行動について、いろんな先生と話し合う中で、自分では気づかなかったことを、別の先生が違う視点から捉えていることがあります。そんな時、学生時代、グループディスカッションをしていたことが、今の現場の仕事にも生かされていると感じています。



今村 保育には、すぐに答えが出ないことがたくさんあります。同じ子どもの姿を見ても、保育者や保護者、療育に関わる先生など、立場によって見え方は異なります。そのため、誰が正しい、誰が間違っているということではなく、その子にとって何がよいのかを、みんなで考えていくことが大切です。授業でも、全員が自分の意見を持ち、それを言葉にすることを大事にしています。学生の時に繰り返し考え、話す経験を積ん

でおくことが、現場で人と連携する力につながります。

川原 私は、入学した頃はピアノがほとんど弾けず、楽譜も十分に読めませんでした。朝早く学校に来て練習し、先生や友達に教えてもらいながら、少しずつ弾けるようになりました。短大で基礎を身につけることができたので、就職後も子どもたちの前で伴奏することができています。発表会で曲を弾き終えた時には、自信にもつながりました。将来、保育者を目指す人にとっては、幼稚園はピアノがマストというイメージがあるけど、ピアノができないことを理由に、保育者になることを諦める必要はないと思います。

保育の仕事には、どのような魅力がありますか。

川原 やっぱり一番は、子どもたちが本当にかわいいことです。朝、園に着いて子どもたちの顔を見ると、「かわいいな」「今日も頑張ろう」と自然に元気になります。子どもたちができるようなになったことを一緒に喜んだり、「これをやりたい」という気持ちを受

け止めたりしながら、毎日いろいろなことに挑戦したりできるのも保育の魅力だと思います。大変なこともあります。それ以上に子どもたちからもらうものが大きくて、「私はこの仕事が本当に好きなんだな」と感じています。

有川 年長児を担当していた時は、子どもたちが自分たちで遊びを發展させ、目標に向かって頑張る姿を見ることに、大きなやりがいを感じました。子どもたちは、「これをやってみたい」「次はこれをしよう」と、さまざまなことに挑戦します。できることが増えていく姿を近くで見ることができるのは、保育者ならではの喜びだと思います。現在は保育部で、0歳児や1歳児と関わっています。寝返りができた、お座りが安定した、初めの一步が出たという小さな成長を、先生や保護者と共有して一緒に喜べるのが、とても楽しいです。年長児と乳児では保育の世界が全く違いますが、それぞれに魅力があります。さまざまな年齢の子どもと関わることで、自分の保育に対する考え方も広がっています。

今村 幼児期の保育には、子どもだけでなく、保護者を含めた家庭と関わるができる魅力があります。幼児期は、人生の中でもその時期にしかない、とても特別な時間です。特に幼稚園では、保護者もまだ子育てを始めて数年という時期に、子どもと保護者の両方に寄り添いながら、一緒に子育てをしていきます。子どもの園での姿だけでなく、きょうだいや保護者、家庭での様子も知り、親子と一緒に理解しながら成長を支えていく。これは幼稚園ならではの素敵なところだと思います。

現場で経験を重ねた今、学生に伝えたいことはありますか。

川原 保護者対応が不安だと感じる学生も多いと思います。でも、保護者の方々は、大切な我が子を園に預けてくださっています。子どもが好きだという気持ちが伝われば、保護者の方もきっとその思いに添えてくださいますし、こちらの話にも耳を傾けてくださります。子どもが好きでかわいくて、日々のたくさんさんのエピソードを伝えていくことで、保護者の方も安心し、「また先生と話したい」という気持ちになってくださると思います。



有川 私は結婚して子どもが生まれた時に、仕事を辞めようか迷いました。しかし、園長先生から「残ってほしい」、周りの先生方からも「また戻ってきてね」と言っていたとき、保護者の方からも「先生がいなくなるのは嫌だ」と言っていたのがうれしくて、「自分は頼りにされている」

「自分はここにいていい存在なんだ」と感じ、仕事を続ける決心をしました。現在は短時間勤務をしながら、子育てと仕事を両立しています。子どもが熱を出した時にも、周りの先生方が「休んでいいよ」と言ってくくださるので、安心して働くことができています。自分自身が母親になったことで、我が子と離れる保護者の寂しさや不安も、以前よりさらに分かるようになりしました。結婚や出産をしても、働き方を相談しながら続けられる仕事だということを伝えたいです。

今村 学生に教えている時も、「この子たちは卒業すれば、私たち以上に、現場で子どものことを思う先生になっていくんだ」と思いながら関わっています。実際に卒業生の話を聞くと、子どものために一生懸命考へ、「この子をどうにかしてあげたい」と学校まで相談に来ることがあります。そういう姿を見ると、「先生になるってすごいことなんだな」と改めて感じます。子どもたちを大切に思い、その子のために悩み、学び、行動する。そんな姿を見ると、現場の先生にはかなわないと思いますし、同時に、保育に携わる人たちの熱心さや温かさ、本当に素敵なお仕事だということを感じます。

未来の保育者へのメッセージをお願いします

有川 今、学校で学んでいることは、どれも保育現場で生かすことができる内容なので、二年間はあつという間ですが、実習に勉強に全力で頑張ってください。働き始めると、一つひとつの経験が保育の仕事につながっています。だからこそ、一コマ一コマの授業と、友達や先生との時間を大切にしてください。

川原 実際、働くこと不安なこともあるけど、楽しいこともいっぱいあるし、子どもたちの笑顔に出会えるので、一歩踏み出してほしいです。ドキドキするかもしれないけど、保育の現場に一歩踏み出すことで、いろいろな気づきや達成感、やりがい等を感じられると思うので、みなさんが様々な園で活躍して保育の世界を盛り上げてほしいです。

今村 保育の世界は、最初から何でもそつなくできる人だけが入れられるように見えるかもしれませんが、決してそんなことはありません。できないことがあっても、先生や友達、仲間に支えてもらいながら、少しずつ成長していくことができます。そして、みんなそれぞれ良さを持った素敵な先生になっていきます。子どものことが大好きな先生たちがたくさんいる、温かく優しい保育の世界に、ぜひ一歩を踏み出してほしいです。

座談会後記

和やかな雰囲気の中、卒業後も続く先生と卒業生の温かなつながりが印象に残る座談会となりました。貴重なお話をありがとうございました。

episode

こどもって…

すごい！ おもしろい！



わが家には、7歳の長女、4歳の長男、2歳の次男がいます。長女は、小さい頃から本当によく笑う子です。少し前に流行った「ラーメン、つけ麺、僕イケメン！」を突然始めては、自分で大笑いしています。その笑い声につられて、気が付けば家族みんなも笑っています。長男は、やさしい子です。道ばたで見つけた花を「ママ、お花好きだからあげるね。」とプレゼントしてくれたり、食べているおやつを「ママも食べる？」と分けてくれたりします。次男は、乗り物が大好きで、自分の好きな世界をしっかりと持っている子です。道路を走る車を見つけるたびに、「あ！アルファード！」「エクストレイル！」と嬉しそうに教えてくれます。

同じ家で育ち、同じように愛情を注いでいても、三人は驚くほど違います。

よく笑う子。やさしい子。好きなことに夢中になれる子。

子どもたちは、一人ひとり違うから面白い。そして、その違いを見つけるたびに、「この子は、この子でいいんだ。」と教えてもらっている気がします。三者三様。それぞれの「その子らしさ」を、これからも大切にしていきたいと思います。

桜ヶ丘中央幼稚園 副理事長 堀之内純

6月の運動会で飾るオープニングセレモニー。5月になかよしクラブ（特色ある教育）が開始し、本番までのチアダンスクラブの活動はたったの2回。

ちょっとした時間に音楽をかけるとチアダンスクラブのお友だちも、他のクラブのお友だちもリズムに乗ってキラキラ笑顔！本番はたくさんのお客様を前に、ダンスに側転、最後のご挨拶、何よりも輝く笑顔でみんなを魅了してくれた子どもたちでした。

千年幼稚園 園長 永吉 あかり



「先生！新しいお友だちのお名前はね、〇〇ちゃんっていうんだよ！」4月初め、お部屋をのぞいた私のもとへ駆け寄ってきて、笑顔で教えてくれたその子の口ぶりは何だか誇らしげで、『私は〇〇ちゃんのこと、先生よりも知っているんだよ！』というメッセージにも受け取れました。私はそれがとても嬉しくて、しばらくその子を目で追っていました。すると、新しいお友だちへ優しく話しかけたり、あそびに誘ってくれたりする姿があり、本当に頼もしく感じました。新年度がスタートした4月は、登園時に涙を流したり、どこか不安そうな表情を浮かべたりする新入園児の姿もありますが、優しいお友だちの存在が私たち以上に安心感を与えてくれているのかもなあと、改めて子どもの力を感じる瞬間でした。

おおぞらこども園 副園長 上原啓夢

7月9日、年少組（3歳児）が初めてブレイランドで泥んこ遊びを体験しました。水を張った田んぼでは、地元の生き物を観察したり、カヤックなど自然の中ならではのダイナミックな遊びを楽しむことができます。

写真の先頭に写る男の子は、最初、水田に足を入れることさえ嫌がっていました。それでも「仲の良い友達と一緒にカヤックに乗りたい。」という思いから勇気を出して挑戦。最初は不安そうな表情でしたが、カヤックが進むにつれて笑顔に変わっていきました。

その後、勢い余ってカヤックが横転し、水田へ落ちてしまいました。泣いてしまうかと思いましたが、聞こえてきたのは大きな笑い声。「すごいね！」「泣かなかったね！」と保育者が声を掛けると、男の子は誇らしげな表情を見せてくれました。

たった一度の体験が、子どもをこんなにもたくましくする。子どもの持つ力に、改めて驚かされた瞬間でした。

認定こども園・吉田南幼稚園 園長 橋口大祐



風は南から
次代の保育を考える取り組み

プロKラボ

プロKラボって？

プロジェクトK研修担当の奥水先生
(阿久根めぐみこども園) に聞いてみた



奥水 基先生 (阿久根めぐみこども園)
理事長・園長

プロKラボにはシンプルなねらいがあります。次世代を担うリーダーが、自分の言葉で自分たちのことを語れるようになることです。少子化が進みさらに園が選ばれる時代に、ニーズに応えるだけでなく、園としての想いを伝えられることを目指しています。毎回2名ほどが発表してその後討議しています。自ら悩みまとめ言葉にすることが発表する人にとっての最大の学びになっています。

前回のプロKラボのご紹介！

～ 燃える情熱を子どもたちの夢に！

10年を振り返り未来を語る ～

令和8年5月22日、天文館ビジョンホールにて前会長の
上原樹縁先生をお招きし開催しました。



「皆さん、今幸せですか？」というハッとする問いかけから講演がスタートしました。「自分が幸せでないと、周り幸せを分かち合えない」という上原先生の言葉には、ご自身が実践されてきた深い想いが込められています。会長としての5期10年間、これまでの当たり前を捉え直し「scrap and build」を繰り返してこられた背景には、困難な時代だからこそ「分かち合う」ことを大切にしたいという強い信念がありました。

「愛・真心・挑戦・貢献」

を人生の理念とし、「愛溢れる人の周りには愛が集まる」と語る上原先生。これからも幼稚園協会や鹿児島全土を、優しく照らす行燈（あんどん）のような存在であってほしいと感じる、温かく感動的な時間でした。

私たちも先生から受け取った愛を胸に、『燃える情熱を 子どもたちの夢に！』の思いを寄せ合い、鹿児島の子どもたちが「むぞか」笑顔でいっぱいになる未来を共に創っていきましょう。



幼稚園・こども園を もっとおもしろくするための仕組み

—ECEQ®をささえる人、ふみだす人—

ECEQ®（イーセック）は、公開保育を活かして園の良さを見つけ、保育の質を高めていく仕組みです。今回は、その進行役（ECEQ®コーディネーター）の紹介と、今年度公開保育を行う予定の先生方の声をお届けします。

ECEQ®コーディネーターの紹介



阿久根市
幼保連携型認定こども園
阿久根めぐみこども園
九州地区ECEQ®専門委員
興水 基 先生

園をトップリーダーの想いだけで変えるのではなく、ECEQ®を通して自園の先生方の思いを対話を通して編み直すことが園の変革の確かな一歩となり、それをそれぞれが意識できること。



鹿児島市
幼保連携型認定こども園
吉田南幼稚園
橋口 大祐 先生

ECEQ®公開保育は「見せる場」ではなく、「共に学ぶ場」。対話を大切にしながら、園の次の一歩を一緒に考えていければと思います。



鹿屋市
幼保連携型認定こども園
信愛こどもの園
吉井 健 先生

【自分を色で例えると…】
薄いオレンジ！
【ECEQ®のいいところ】
実施園が中心



南九州市
認定こども園
かつめこども園
三木 真由美 先生

【自分を色で例えると…】 黄色
【ECEQ®のいいところ】
園としては良さと改善点をみんなで共有できるところ。保育教諭としては、保育の状況がわかり目標が見つけれられる。



鹿屋市
認定こども園
西原幼稚園
野田 裕一 先生

【自分を色で例えると…】 青
【ECEQ®のいいところ】
園のいいところが見つかり、自分の園を今よりもっと好きになると思います。



鹿児島市
幼保連携型認定こども園
つばき幼稚園
大保 辰美 先生

【自分を色で例えると…】 ピンク
【ECEQ®のいいところ】
自分では気付いてない良いところがオープンになる!! 保育者の自信につながる素敵なECEQ

〔コーディネーターの役割〕 事前訪問で園の願いを聴く→当日の対話をデザインする→ふり返りで次の一歩を一緒に描く

今年度、公開保育を行います

養成講座で学ぶ2名の先生 —なぜ「やってみよう」と思ったのか—



公開保育を通して、自分たちが大切にしている保育を改めて見つめ直し、自覚的に語れる園を目指したいと考えています。

また、多様な視点から助言をいただき、進むべき方向を明確にする機会にしたいです。

薩摩川内市
認定こども園せんだい幼稚園
田原 慎也 先生



公開保育を通して、自分たちでは気付いていない園の良さを見つけたいと思いました。先生方がそれぞれの保育の良さを感じ、その気付きが園全体の次の一歩につながればと思っています。

鹿児島市
幼保連携型認定こども園 鹿児島おおとり幼稚園
伊福 勇史 先生



西薩支部

(日置市・いちき串木野市・薩摩川内市・薩摩郡さつま町・阿久根市・出水市・出水郡長島町)

朝日ヶ丘幼稚園
伊集院幼稚園
吹上中央こども園
くしきの森のこども園
友愛幼稚園
神村学園附属幼稚園
みくに幼稚園
川内聖母幼稚園
のぞみ幼稚園
鹿児島純心大学附属純心幼稚園
せんだい幼稚園
青山幼稚園
宮之城聖母幼稚園
阿久根めぐみこども園
あくね園
出水聖母幼稚園
慈光幼稚園
もみじこども園
江内みかんこども園
風の杜こども園

熊毛・大島支部

(西之表市・熊毛郡中種子町・熊毛郡南種子町・熊毛郡屋久島町・大島郡徳之島町・大島郡天城町)

めいろうこども園
きりすとこども園
榕城幼稚園
西之表幼稚園
野間幼稚園
中央認定こども園
すみれ子ども園
ゆかり幼稚園・
どんぐりの森保育園
あゆみの森こども園
亀津カトリック幼稚園
天城カトリック幼稚園

大隅支部

(垂水市・鹿屋市・肝属郡錦江町・肝属郡肝付町・志布志市・曾於市・曾於郡大崎町)

カトリック垂水幼稚園
鹿屋幼稚園
まつしたこどもえん
鹿屋カトリック幼稚園
信愛こどもの園
第一鹿屋幼稚園
西原幼稚園
星幼稚園
日の出幼稚園
南部幼稚園
大根占幼稚園
田代幼稚園
いずみ幼稚園
おおぞらこども園
しぶし幼稚園
カトリック志布志幼稚園
末吉中央幼稚園
大隅中央幼稚園
しゃらこども園
大崎幼稚園

南薩支部

(指宿市・南さつま市・南九州市・枕崎市)

白百合幼稚園
指宿幼稚園
せいあこども園
みどり幼稚園
コスモス幼稚園・
こすもす保育園
加世田聖母幼稚園
加世田しらうめ幼稚園
川辺幼稚園
かつめこども園
長野幼稚園

始良・伊佐支部

(始良市・霧島市・伊佐市)

啓明幼稚園・保育園
薫光幼稚園
エミールこども園
エミールさくらこども園
双葉幼稚園
あいら幼稚園
宮内認定こども園
日当山総合こども園
隼人ひまわりこども園
あさひ幼稚園
隼人高千穂こども園
鹿児島第一幼稚園
国分幼稚園
しおんこども園
カトリック国分幼稚園
国分愛の園幼稚園
竹の子幼稚園
かとれあ
あおば幼稚園
あかつき認定こども園
きよみず認定こども園
高千穂幼稚園
大口幼稚園

あなたのまちの園を
見つけてみてね！



鹿児島の子どもたちの育ちを、地域の園が支えています。

鹿児島県私立幼稚園協会には、県内各地の幼稚園・認定こども園が加盟しています。それぞれの園が特色を生かしながら、子どもたちの健やかな成長と、ご家庭の子育てを支えています。あなたのまちの幼稚園・認定こども園を見つけてみてください。

鹿児島支部（鹿児島市）

1 ブロック

（玉里団地・緑ヶ丘・千年・伊敷・下伊敷・草牟田・小山田・小野）

うちの幼稚園
はなぶさ幼稚園
千年幼稚園
伊敷幼稚園
いにしき幼稚園
玉里善き牧者幼稚園
草牟田幼稚園
恵光東俣幼稚園
あけぼの幼稚園

4 ブロック

（明和・原良・薬師・武・武岡・西陵・田上）

なでしこ幼稚園
みのり幼稚園
昭和幼稚園
さみどり幼稚園
武幼稚園
鹿児島おおとり幼稚園
ヴェリタスこども園
武岡幼稚園
さつき幼稚園
ひばり幼稚園
田上幼稚園

2 ブロック

（吉野・大明丘・東坂元・西坂元・川上・春日・東千石・平之町・加治屋・新町・本名・東佐多）

カトリック吉野幼稚園
こばと・ゆなの木こども園
辻ヶ丘幼稚園
さかもと幼稚園
川上幼稚園
共立幼稚園
和光幼稚園
鹿児島三育幼稚園
集成幼稚園
大谷幼稚園
吉田南幼稚園
よしだルンビニー幼稚園

5 ブロック

（紫原・桜ヶ丘・中山・星ヶ峯・皇徳寺台）

かもめ幼稚園
紫原幼稚園
カトリック・カリタス幼稚園
鹿児島さくら幼稚園
つばき幼稚園
桜ヶ丘中央幼稚園
若葉幼稚園
星ヶ峯幼稚園
錦城幼稚園
すみれ幼稚園

3 ブロック

（新屋敷・加治屋・荒田・下荒田・上之園・鴨池・鴨池新町）

アソカ幼稚園
敬愛幼稚園
聖母幼稚園
やはた幼稚園
研明舎幼稚園
共研幼稚園
めぐみ幼稚園
鴨池幼稚園
鴨池しらうめ幼稚園
太陽の子幼稚園

6 ブロック

（宇宿・東谷山・小松原・谷山中央・西谷山・和田・錦江台・下福元町・喜入）

宇宿幼稚園
ひまわり幼稚園
こまつばら幼稚園
清谿幼稚園
谷山善き牧者幼稚園
たにやま幼稚園
鹿児島幼稚園
可愛幼稚園
喜入幼稚園



それぞれの園に、それぞれの魅力があります。
園の詳しい情報は、各園のホームページや鹿児島県私立幼稚園協会の
ホームページをご覧ください。



詳しくはこちら

PHOTO

日常の風景 | 2026

「子どもたちの世界」
何を楽しみ・何にワクワクしているのか
普段の幼稚園での姿を少しだけご紹介



ダンゴ虫、ゲットだぜ！！

園名：宮内認定こども園

住所：霧島市隼人町神宮1丁目12-13

電話：0995-42-0171



みてみて！

お山に雨が降ってきた～！

園名：おおぞらこども園

住所：肝属郡肝付町後田9808

電話：0994-65-9711



楽しい！があふれる場所

園名：認定こども園高千穂幼稚園

住所：霧島市牧園町高千穂3864-7

電話：0995-78-4125



春に出会ったお友だち

園名：千年幼稚園

住所：鹿児島市千年2丁目1番3号

電話：099-220-8686



梅雨の合間

久しぶりの子ども達の歓声

園名：太陽の子幼稚園

住所：鹿児島市鴨池新町25番6

電話：099-256-7288





一般社団法人
鹿児島県私立幼稚園協会
会長 三木 隆朋
Ryuko Miki

学校法人ゆめおえ学園(南九州市)
川辺幼稚園 理事長・園長
鹿児島県の乳幼児期の教育・保育の質向上
をめざし、仲間と力を合わせながら日々邁進
している。

子どもに与えるもの

私の園には0歳児から5歳児までの乳幼児がいます。この世界に入って三十五年が経ち、たくさんの子とも達と生活をさせていただいております。毎日のように子ども達の姿を見ていますと、様々なことに気づかされます。

乳幼児期の発達の特徴として、次の発達段階へ進むとき、少しずつできるようになっていくのではなく、突然の変化として現れるということが挙げられます。例えば、1歳を過ぎた頃、ある日突然立ち上がったり、「ママ」とか「まんま」と言葉を発してみたりすることがあります。つまり、「それまでできなかったことが、突然できるようになった」ように見えることです。このような現象を『カストロフィー現象』と呼びます。

初めて「ママ」と言葉を発した子は、それまで何もしていなかったのでしょうか。答えは「否」ですね。それまでの間に、親はお世話をしながら「おなかがいっぱいだね」「おむつをかえましょうね」と何度も何度も声をかけ、子はその声を聞いて

て音を覚えて意味を理解していきます。以前、生まれたばかりの人間の喉は、猿と同じくつくりをしていて、生後一年間で人間特有のつくりになっていくという話を伺ったことがあります。が、そのことを考えると「言葉を発したくても発することができない」ということが事実のようです。言葉が発することができる要素がすべて備わるまでの間に、子どもは内に力を蓄えていつか出てくるのです。「力をためてためて出来るようになる」ことの繰り返しです。乳幼児期の発達は、坂道を登っていくのではなく、階段を上っていくようなイメージを持っていたかと分かりやすいかもしれません。

先哲の教えに「与えるものは、物だけでなく温かい心も必要なのです」とありますが、深く頷ける言葉です。子どもの発した言葉に返してあげる。子どもが発見したことを一緒に喜んであげる。きっとできるようにになると信じて待つ我慢強さ。大切なことは、どんな時にも「言葉」と「心」をかけてあげることだと強く思うのです。

表紙写真

鹿児島市・幼保連携型認定こども園 武岡幼稚園

園庭に広げた大きな紙、そして絵の具たち。思わず子どもたちも手を伸ばし、手も服も絵の具だらけになって色を重ねていく。「やってみよう」が動き出すと、子どもはこんなにも夢中になります。武岡幼稚園が大切にしているのは、遊びの中でこそ育つ力。つよく・かしこく・こころゆたかに。子どもも大人も、一緒に育ちあえる園でありたいと願っています。



幼保連携型認定こども園 武岡幼稚園
鹿児島市武岡武岡5丁目26-6
☎099-282-7000

今年度も「むぞか新聞」を発行することができました。取材や誌面づくりを通して、県内各地で子どもたちのために力を尽くす先生方の思いや、保育の魅力に改めて触れる機会となりました。

ご多用の中、取材や写真提供などにご協力いただきました皆様、心より感謝申し上げます。また、企画・取材・編集に携わってくださった委員・部員の皆様にも、この場をお借りして御礼申し上げます。

企画・取材・編集・構成
(一社)鹿児島県私立幼稚園協会
調査広報委員会・部会

【担当副会長】吉井 健
(信愛こどもの園)
【総務委員長】田原慎也
(せんだい)

【委員長】伊福勇史
(鹿児島おとしり)
【副委員長】福丸直宏
(武岡)

【部員】橋口大祐
(吉田南)
【部員】上原啓夢
(おおぞら)

【部員】濱元庄吾
(吹上中央)



発行 一般社団法人 鹿児島県私立幼稚園協会
〒890-0064 鹿児島市鴨池新町5-6-502
E-mail jimukyoku@muzoca.net
ホームページ <https://muzoca.net>
Instagram @muzoca_kagoshima

お話を耳を傾けながら、天井に映し出される
光や影を見つめる子どもたち。
幻想的な物語の世界に包まれ、みんなで楽
しいひとときを過ごしました。
(写真:鹿児島おおとり幼稚園)